

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	スポーツリテラシーⅦB(Sports LiteracyⅦB)・サッカー	授業コード	E001952
担当教員名	橋本 堅次郎		
配当学年	3	開講期	後期
必修・選択区分	選択	単位数	4
履修上の注意または履修条件	指定クラブ学生のみ受講可。		
受講心得	出席は毎回取ります。		
教科書			
参考文献及び指定図書	特になし。		
関連科目	健康の科学、生涯スポーツ指導、スポーツ実践・基礎Ⅰ、スポーツ実践・基礎Ⅱ、スポーツ実践・応用Ⅰ、スポーツ実践・応用Ⅱ		

授業の目的	後期を通して、各種目のスポーツトレーニング・練習方法・戦術に関してどのようなことに興味があり、問題意識を持っているかにより各種目のテーマを決定し、インターネット・文献・著書・ビデオ等色々な方法で資料を収集し、分析することを目的とします。
授業の概要	

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
◆体力 組織的な動きを可能にする、体力向上	
◆チーム戦術(プレーの原則)	
1、攻撃の原則	
①突破(ダイレクトプレー) ドリブル突破・DF背後へのパス	
②厚み(サポート) サポートの正しい距離と角度 a前方に前フィールドが見える b簡単にボールを受けられる。 c攻撃のコースを変えられる d前方へボールを出す時間とスペースがある	
③幅(拡がり) a突破のパスや突破の動きをする為のスペースを創る。BDFを孤立させる c自分のためのスペース創り	
④活動性(動きの質と量) 新たなスペースを創り使おうとする攻撃側のポジションチェンジ	
⑤即効性 終結した守備組織をかく乱させ、守備の網の目にGAP(スペース)を創り出す、創造力と判断	
2、守備の原則	
①a遅らせる(ディレイ) 相手の突破のスピードを落とさせる。 b守備の体制を整える為の時間稼ぎ 1)シュートを打たせない 2)ドリブルで抜かれない 3)背後にパスを出されない c数的不利な状況では、不用意に奪いに行かない。	
②a厚み(サポート) 適切な情報と指示を与える。 bファーストディフェンダーと相手との関係で変動する。・深すぎるカバーは前に大きなスペースを創る。	
③終結・集中 ・攻撃の拡がりに対する守備の終結 ・ボールを奪うための積極的なボール保持者への囲い込み(守備の集中)	
④バランス ・マークの受け渡しなどでのバランス ・リベロのカバーリングに逆サイドの選手がスライドし、守備のバランスを保つ	
⑤コントロール ・意表をつく攻撃を参加させないよう、相手をコントロールし予測可能な状況を創る。 1)相手の攻撃方向を限定する(制限) 2)無謀なタックル=飛び込まない(自制)	
授業の運営方法	(1)授業の形式 「演習等形式」 (2)複数担当の場合の方式 (3)アクティブ・ラーニング 「アクティブ・ラーニング科目」
備考	

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	◆体力 組織的な動きを可能にする、体力向上
【知識・理解】	◆チーム戦術(プレーの原則) 1、攻撃の原則 ①突破(ダイレクトプレー) ドリブル突破・DF背後へのパス ②厚み(サポート) サポートの正しい距離と角度 a前方に前フィールドが見える b簡単にボールを受けられる。 c攻撃のコースを変えられる d前方へボールを出す時間とスペースがある ③幅(拡がり) a突破のパスや突破の動きをする為のスペースを創る。BDFを孤立させる c自分のためのスペース創り ④活動性(動きの質と量) 新たなスペースを創り使おうとする攻撃側のポジションチェンジ ⑤即効性 終結した守備組織をかく乱させ、守備の網の目にGAP(スペース)を創り出す、創造力と判断
【技能・表現・コミュニケーション】	2、守備の原則 ①a遅らせる(ディレイ) 相手の突破のスピードを落とさせる。 b守備の体制を整える為の時間稼ぎ 1)シュートを打たせない 2)ドリブルで抜かれない 3)背後にパスを出されない c数的不利な状況では、不用意に奪いに行かない。 ②a厚み(サポート) 適切な情報と指示を与える。 bファーストディフェンダーと相手との関係で変動する。・深すぎるカバーは前に大きなスペースを創る。 ③終結・集中 ・攻撃の拡がりに対する守備の終結 ・ボールを奪うための積極的なボール保持者への囲い込み(守備の集中) ④バランス ・マークの受け渡しなどでのバランス ・リベロのカバーリングに逆サイドの選手がスライドし、守備のバランスを保つ ⑤コントロール ・意表をつく攻撃を参加させないよう、相手をコントロールし予測可能な状況を創る。 1)相手の攻撃方向を限定する(制限) 2)無謀なタックル=飛び込まない(自制)
【思考・判断・創造】	

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	0点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。				
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。				
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。				
(「人間力」について) ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	
発表・その他(無形成果)	